

努めてゐたが、九月廿五日洋モス争議の勃發するや黨本部
 常任委員会の委託により十月二日の委員会に於て争議應援
 方針を決定すると共に、争議基金募集、官憲警察科彈委員
 の任命その他應援方法を決定し實行した。更に、十月十二
 日の委員会の決定にもつき労働委員會の名を以て東京附
 近支部代表者會議を同十九日、龜戸町、洋モス従業員協議
 會事務所に召集し、出席者三十餘名左の如く決議をなし、
 次いで各代表者をして争議團を訪問、激動せしめた。

- 一、争議團委員對面條件
 - (イ) 争議の激化に伴つて應援方法の發展進化に従ひ大衆的應援團
 争の指揮機關として労働委員會を組織すること。
 - (ロ) 委員は黨本部労働委員二名、東京所在支持労働組合四名、東京
 府内より二名を擁立する。
 - (ハ) 應援委員會本部と黨本部内閣とその他農村方面に對する應
 援同等の組織、應援行動組織等々の希聖條件。
 - 二、定期日を定めて各支部及各組合支部等を中心に演説其他大衆
 動員を實行する。
 - 三、各支部大會、モネスト、オモ等々支分し應援すること。
 - 四、各支部に應援團組織責任者を選出し活動なる組織をやること。
- この決議により、淺沼、岩崎、佐良土、菊、高橋、新井
 高野、高瀬の委員よりなる應援委員會は無産階級人同盟、農

村委員会等と提携し、洋モス争議團、應援團と連絡の下に
 諸決議の實行に努力し、十一月八日夜には東京附近四十餘
 ケ所に於て洋モス争議應援、暴壓反對、一齊演説會を開催
 し氣勢をあけた。諸種の事情により豫期を收め得なかつた
 が、大衆動員に對するよき經驗と教訓を得た。

- C、労働會その他
- 失業反對、自主的労働組合法獲得闘争を労働議會を通じ
 て勇敢に闘争せしむるため、労働議會準備委員として手持
 組合より委員を推薦し、また労働議會に労働組合代表を参
 加せしめ黨中堅勢力としての労働組合の威力を發揮せしめ
 た。
- 尙、十一月二日夜、労働委員會代表、横濱市代表の會
 合を催し、六大都市従業員組合協議會結成に就き協議した
 が、近く東京市従業員組合も大衆黨支持に決する筈。
- 二、労働委員會の組織建設
- A、七月廿六日 於黨本部
- 一、労働委員會と連帯委員等との關係に就て
- 二、中央労働學校設立に就て
- B、九月九日 於黨本部
- 一、連帯委員會議成分に關して

- 二、労働委員會の組織
- 一、東京市労働委員會の組織
- 二、モス争議應援委員會及び各支部の労働委員會の決定
- 三、労働委員會方針決定
- D、十月十二日 於黨本部
- 一、労働會に關するが資金その他に就て
- 二、モス争議應援に關する大衆動員方法
- 三、暴壓反對共同闘争を組合間の共同闘争に發展せしむる件

二、農村委員會報告

會長 田所輝明
 主任 川俣清音
 常任 角田藤三郎
 常任 平野學

昭和五年度に於ける本委員會の活動は農村窮乏打破闘争
 の全國的組織と農業プラットフォーム及び小作法案の作製
 である。

二、窮乏闘争の意義

農業恐慌は全地球を蔽ふてゐる、小麦米生糸羊毛を始め

全農産物は暴落を極めてゐる。吾國の農民は滿の安値に打
 のめされ秋の米の底値に死のドン底につき落された。資本
 主義經濟の矛盾は農作の前面に餓死と飢饉を現出した。一
 千三百萬石の増收この恵まれたる自然に對する人間の勝利
 にも拘はらず都市の洪水的失業群は今日の米を缺き、農民
 は超飢饉的窮乏の中にある。この農民の窮乏に對し、しか
 も金解禁緊縮政策と産業合理化の全犠牲を大衆に轉嫁する
 ことにより窮乏を極大化し濱口内閣は資本家地主の救済に
 吸々たるも農民大衆の蒼色をいささかも介意しない。

春の生糸の暴落に對し政府は八千萬圓を投じて生糸資本
 家と銀行資本家のために損失補償をなせるも賠償暴落によ
 る養蠶農民の損失補償要求に對しては一顧もない。今や米
 の暴落に對しても農民の直接救済をなさず、米が地主と米
 問屋の倉庫に入るを待つて米價吊り上げを策してゐる。
 『豊年に太鼓の音なく秋淋し』(三宅正一作)歌はまづく
 もそれは矛盾に満ちた農村の絶望の姿である。

この窮乏と非常の農村を『死人の家』より奪還するため
 には、滿の問題、米の問題を切り離して論議し解決せんと
 するは最早ナンセンスである。なぜならば積年の收支不償
 による窮乏が今や最早耐え得べからざる生活不能の最大限